[Japanese speech]

00:00:41.730 --> 00:01:00.570

スズキ・トモユキ：改めまして、こんにちは。トーマス・トモユキ・スズキです。東京の学会一般出版チーム（society general publishing team）の出版担当です。本日は、今回が初となるオンライン開催の日本Wiley学会リサーチセミナー（Japan Wiley Society Research Seminar）の最終セッションにお越しいただき、どうもありがとうございます。

スズキ・トモユキ：始めに、このセッションは英語で行われ、日本語の同時音声通訳がつきます。視聴言語は、画面の下部にあるメニューの言語選択オプションからお選びいただけます。

00:01:20.280 --> 00:01:27.480

[Japanese speech]

スズキ・トモユキ：視聴者の方は全員ミュートされていますので、講演者への質問は画面下部のQ＆Aボタンからテキスト入力し、お送りください。

スズキ・トモユキ：システムに問題が発生した場合は、チャット機能でお知らせください。こちらで最大限のサポートをさせていただきます。

スズキ・トモユキ：このプレゼンテーションは録画され、セッション後に準備ができ次第、録画ビデオのリンクを皆様に共有いたします。

スズキ・トモユキ：本日の講演者は、Wileyのアソシエイト編集ディレクターのスティーブン・オットガーリ氏です。

スズキ・トモユキ：オットーは、20年にわたり理工医学出版業界に携わっています。エルゼビアやネイチャー出版グループでは、臨床・基礎研究を掲載する生物医学会誌のポートフォリオ管理を行ってきました。

スズキ・トモユキ：オットーは私たち東京チームとも緊密に連携して業務を行っており、私たちは本日彼がこのセミナーに参加し、出版界におけるイノベーションについてお話しいただけることを大変うれしく思っています。

スズキ・トモユキ：セミナー初日には、研究公正の観点から見たイノベーションと、研究に関わるステークホルダー全員がいかに役割を担っていけるかについて、多くの話を聴きました。

スズキ・トモユキ：私たちがWileyでの出版プロセスにおいて使用する実際のシステムやワークフローにおいても、多くのイノベーションが進んでいます。

スズキ・トモユキ：これらのイノベーションは、出版のワークフローを全員にとってより良いものにしていくというだけでなく、私たちが現在、そして将来的に質の高い研究を発信していくための、強固かつ適応力の高い出版インフラストラクチャーを維持していくことを可能にします。

スズキ・トモユキ：セッションの後に、質疑応答の時間を十分に用意していますので、もしオットーへのご質問がありましたらご提出ください。

スズキ・トモユキ：では、オットーをお迎えしたいと思います。

00:03:50.670 --> 00:03:51.870

スティーブン・オットガーリ：トモさん、ありがとうございます。

スティーブン・オットガーリ：今、画面を共有します。

スティーブン・オットガーリ：見えますか？

スティーブン・オットガーリ：いいですね。

スティーブン・オットガーリ：トモさん、ご紹介ありがとうございます。皆さん、こんにちは。本日は、このWileyリサーチセミナーで皆さんとご一緒できてうれしいです。先週は、クリス・グラフのプレゼンテーションに参加され、有意義な時間を過ごされたことと思います。また、いつか、セミナーで直接皆さんと顔を合わせられるチャンスがあればと願っています。

スティーブン・オットガーリ：今しばらくは、つながりを保っていることがとても大事ですから、今週、このようにバーチャルな形で皆さんと一緒にいられることにとても感謝しています。

スティーブン・オットガーリ：これから皆さんにお話するのは、私たちが最高の質の研究出版に必要なサポートとサービスを提供するために、Wileyで学術出版パートナーや編集者とともに行っている重要な投資についてです。

スティーブン・オットガーリ：これらの投資は、出版プロセスのあらゆるステップ、つまり原稿の投稿からアクセプトされた論文の掲載までにおける、著者や査読者などの研究者や編集者のニーズに導かれ、またそのニーズに即してデザインされています。

スティーブン・オットガーリ：何よりもまず、出版社は研究者のニーズに注力すべきであるという考えは、もちろん新しいものではありません。おそらく皆さんにとっては、Wileyから何年も聞かされていることかもしれません。なぜなら、それが私たちのコアバリューだからです。

スティーブン・オットガーリ：私たちが研究者が最良の成果をより多くの人々に共有するための支援に尽力することが、社会の利益となると信じています。

スティーブン・オットガーリ：そしてそのために、私たちは出版サイクルのあらゆる段階での著者や研究者の体験をより良いものとしていきたいと、心から望んでいます。

スティーブン・オットガーリ：ただ、現在起こっていること、このニューノーマルが明らかにしたことは、私たちには、出版活動を著者のみならず全員にとってより良いものとする機会が、まだまだあるということです。

スティーブン・オットガーリ：本日私たちが話し合うそれらの機会は、出版社が長年直面してきた、しかし現在の状況においてさらに緊急性を増している、3つの重要な問題にもとづいています。

スティーブン・オットガーリ：パンデミックは多くの分野で、これまで私たちが長らく取り組んできた新たなワークフローや改善の実行を加速しています。

00:06:29.670 --> 00:06:45.540

スティーブン・オットガーリ：私たちが直面している最初の問題は、経済的課題です。学術コンテンツの助成機関は、今年、深刻な予算の制約に直面しています。世界経済がいつ回復するのか、そしてその回復がどのような形となるのかは明らかになっていません。

スティーブン・オットガーリ：パンデミックに関連した経済的圧迫が起こる以前から、出版界の経済的観点において、コンテンツの基本単位としての焦点はジャーナルから論文に移ってきています。

スティーブン・オットガーリ：もし業界のオープンアクセスに関する動向に注目していたなら、例えば、世界的に、政府の政策や民間助成機関の方針が一貫してオープンアクセスへと移りつつあることに気づくでしょう。

スティーブン・オットガーリ：この動きは世界各地において、異なる形で、そして異なる速度で進行していますが、全般的に、研究文献が購読形式からオープンアクセスへと移行する傾向は世界的に見られます。

スティーブン・オットガーリ：そのすべての要因をここで詳細に検討することはしませんが、この段階では、オープンアクセスが出現し、今後も学術出版において焦点となることは明らかであると述べておきたいと思います。

スティーブン・オットガーリ：また、オープンアクセスは現時点で、ヨーロッパや英国で活動する場合に重要なだけでなく、世界的に広がることが予測されるグローバルなトレンドであることもはっきりしています。

スティーブン・オットガーリ：私たちが直面している重要な問題の2点目は、時間に関する危機です。

スティーブン・オットガーリ：これは皆さんにとっても驚くことではないと思いますが、多くのジャーナルにおいて、査読者を探すことは相変わらずの難題です。編集者にとって、査読者を探し出すのに費やされる時間のプレッシャーは以前にもまして大きくなっており、編集者としてのその他の責任とのバランスを取ることを難しくしています。

スティーブン・オットガーリ：内容の精査にかかる時間とジャーナル発行業務の両立は、維持しがたいものになっています。

スティーブン・オットガーリ：そして最後に、この10年間で、出版界におけるテクノロジーと自動化技術の活用は大きく進歩しましたが、多くの場合、必要以上に時間がかかるシステムやプロセスがいまだに使用されています。

スティーブン・オットガーリ：そのため、本来ならコンテンツの質と公正さの確保に費やすべき時間が奪われています。

スティーブン・オットガーリ：ジャーナルがオンライン出版を開始したのは、もう30年近く前のことです。しかし、印刷環境で発展してきた多くのワークフローが、手つかずのまま残されました。

スティーブン・オットガーリ：実際、研究情報の発信の形式と機能自体が、学術出版が始まったほぼ400年前からあまり変わっていません。

スティーブン・オットガーリ：本質的に、研究は本来あるべき再現性の確保が難しく、いわゆるこの再現性の危機は、研究の信頼性、そしてジャーナルそのもの、さらにはそれが属する学会への評価を示唆するものです。

スティーブン・オットガーリ：これを踏まえ、私たちは21世紀における質の高い、著者中心の制作プロセスとは何かについて、再構築し、再定義しはじめています。

スティーブン・オットガーリ：おそらく多くの皆さんとって、これは新しい話ではないと思いますし、実際、新しい話ではありません。これまでと違うのは、これらのプレッシャーが強まりつつあり、今後も私たちは思いも寄らない大きな変化を経験していく可能性が高い――おそらく今現在、もしくは去年1年間で経験したほどの規模ではなくとも、それでも大きな変化を――ということです。

00:10:23.850 --> 00:10:25.410

スティーブン・オットガーリ：ただし、良いニュースもあります。

スティーブン・オットガーリ：それは、これらの問題は新しいものではないため、私たちはすでにその解決に向けての取り組みを行っているということです。

スティーブン・オットガーリ：学術出版のエコシステムへのプレッシャーが大きくなるにつれ、私たちはそのシステムにかかりすぎる負荷を緩和するための解決策を生み出し、実用化する能力を拡大しています。

スティーブン・オットガーリ：そうすることで、著者は研究活動の実施と発表のための時間を確保し、編集者はジャーナルに掲載する内容の質と公正さを高め、学会は彼らの領域全体を発展させていくというミッションに集中することができるようになります。

スティーブン・オットガーリ：世界中の学会の出版パートナーとして、Wileyはこれらの問題に対し、業界が生み出しうる最良のガイダンスを提供することを目指しています。

スティーブン・オットガーリ：ですから、私たちは公正な学術研究の共有を支援するため、著者の論文投稿から掲載までのフローにおけるより高性能なツールとよりシンプルなプロセスを開発し、出版業界の現在と未来への投資を行っています。

スティーブン・オットガーリ：では今から、私たちの出版プロセスにおける研究支援のいくつかの例をお見せします。

スティーブン・オットガーリ：まず、受理前の段階、つまり論文がジャーナルにアクセプトされる以前の段階におけるいくつかの例をお話します。それから、論文掲載のワークフローにおける受理後の段階で行われている素晴らしい事例について、少しお話しようと思います。

00:12:00.330 --> 00:12:11.310

スティーブン・オットガーリ：先ほど、編集者と査読者は多大な時間的プレッシャーにさらされているとお話しました。研究発表は増加しており、システムにおいて審査の必要な論文は増えています。

スティーブン・オットガーリ：もし著者が論文を出版するまでの過程を考えてみれば、論文が受理されるまでに2つ、場合によっては3つのジャーナルに投稿するのは、彼らにとって珍しいことではありません。

スティーブン・オットガーリ：つまり、その論文に対する3セットの査読が必要になり、多くて12人の査読者が必要だということになります。しかも、複数のジャーナルに投稿されているため、査読者によっては、同じ論文の査読を複数回依頼される場合もあります。

スティーブン・オットガーリ：著者もまた、それぞれのジャーナルの書式要件に合わせて、少なくとも3回は原稿の書式変更をしなければなりません。

スティーブン・オットガーリ：彼らは貴重な時間を、編集部の投稿システムに原稿内の情報をコピー＆ペーストし、各種要件をすべて満たしていることを確認するためのチェックに印をつけるのに費やしています。

スティーブン・オットガーリ：ある研究によれば、著者は毎年、複数のジャーナルに投稿する際に平均で最大52時間を原稿の書式設定に費やしているとされています。

スティーブン・オットガーリ：これはまさに時間の無駄といえるプロセスです。私たちの著者に対するアンケートによれば、もし出版過程において変更ができる点があるなら、書式要件の少ないよりシンプルな投稿システムというのがトップになっています。

スティーブン・オットガーリ：このフィードバックを受け、Wileyは2019年、書式自由な投稿オプションを開始しました。

スティーブン・オットガーリ：このオプションにより、研究者たちは彼らの好きな書式で論文を投稿できるようになりました。

スティーブン・オットガーリ：初回投稿の主要な要件は、原稿、データと図表が編集者と査読者に読めるものでなければならないということです。その他の書式や形式は、この段階では要求されません。

スティーブン・オットガーリ：その論文が査読を経て、編集者が原稿を審査した後、著者にはその原稿が出版に向けてアクセプトとなる見込みが大きいと分かってから、修正段階で書式に関する要件が課されます。

スティーブン・オットガーリ：この簡素化されたプロセスは著者にとって有益です。彼らは書式変更や書式要件ではなく、研究そのものに集中できるようになります。

スティーブン・オットガーリ：これはジャーナルにとっても有益です。なぜなら、複雑な投稿要件のせいで、著者は提出プロセスがもっと簡単だと分かっているジャーナルを選ぶかもしれないからです。

スティーブン・オットガーリ：私たちはこのコンセプトをさらに一歩先に進め、Research Exchangeという、新たな、より洗練された、よりシンプルな提出プラットフォームを開発しました。これはREXとも呼ばれています。

スティーブン・オットガーリ：REXはジャーナルのScholarOne原稿投稿サイトに接続しているため、編集や査読のワークフローはこれまでと変わりません。

スティーブン・オットガーリ：著者はこのResearch Exchangeプラットフォームを通じて原稿を投稿することができ、その原稿は申請と査読のために各ジャーナルのScholarOneサイトに直接エクスポートされます。

スティーブン・オットガーリ：コピー＆ペーストをする代わりに著者がファイルをアップロードすると、プラットフォームが機械学習を利用して原稿を読み、主要な情報を特定します。

スティーブン・オットガーリ：その情報がResearch Exchangeシステムに自動入力され、著者がそれを確認します。

スティーブン・オットガーリ：REXは現在、80以上のジャーナルで利用されており、今年さらに多くのジャーナルが使用を開始する予定です。

スティーブン・オットガーリ：著者のエクスペリエンスは格段に向上し、これはジャーナルにとっても有益です。より簡素な提出システムにより、研究成果の適切な発表先を探している著者はそのジャーナルをより魅力的に感じます。これまでのところ、REXを使った著者からは非常に肯定的なフィードバックを得ています。

00:16:01.470 --> 00:16:12.990

スティーブン・オットガーリ：編集部の推薦と原稿トランスファーサポートも、1本の論文を掲載するまでにかかる時間――編集者、査読者、著者の時間――を短縮するために非常に有効な方法です。

スティーブン・オットガーリ：皆さんのジャーナルの多くはすでに、編集者が論文を他のジャーナルへ推薦するトランスファーネットワークに組み込まれているかもしれません。既存の査読が論文に添付されるため、査読者と著者の時間を節約することができます。

スティーブン・オットガーリ：トランスファーネットワークは著者のより良いエクスペリエンスを提供します。効率的で、ネットワーク内のジャーナルへの質の高い論文投稿を促すことができます。

スティーブン・オットガーリ：例えば、ある論文が、単にジャーナルの領域外だという理由でリジェクトされ、ただし内容自体は他のジャーナルに掲載されるに足る品質だったとします。

スティーブン・オットガーリ：トランスファーネットワークは、その方法や範囲はさまざまですが、ジャーナルに最高品質の掲載内容を確保するための機会を与えてくれます。

スティーブン・オットガーリ：編集者主導のトランスファーネットワークに加え、私たちはWiley *Transfer Desk Assistan*t、TDAという選択肢も提供しています。

スティーブン・オットガーリ：これは、著者が最初に投稿したジャーナルで論文がリジェクトされた場合に、人工知能を使って論文の内容を他のジャーナルの目的と領域にマッチングさせるツールです。

スティーブン・オットガーリ：編集者推薦と比較すると、TDAは決定後に行われるもので、編集者からの補足的な情報は何も必要としません。これもやはり、著者が自身の研究の適切な発表先と読者を見つけるのを助け、全体のエコシステムの時間を節約します。

スティーブン・オットガーリ：ジャーナルの対象領域に目を通し、複数の著者ガイドラインを読み、時間のかかる再投稿の手続きをする代わりに、著者は提案ジャーナルの一覧表をメールで受け取ります。

スティーブン・オットガーリ：リンクをクリックすると、直接新しいジャーナルへと再投稿されます。

スティーブン・オットガーリ：それを受け取ったジャーナルには、その推薦原稿をアクセプトする義務はありませんが、ここでも、このような高性能ツールが投稿手続きのしやすさを強化します。

スティーブン・オットガーリ：これらの、自由書式提出やよりシンプルで自動化された投稿手続き、そしてAIを活用した推薦ツールなどのイニシアチブは、著者中心のエクスペリエンスを実現するために私たちがパートナーとともに進めている取り組みのほんの数例です。

スティーブン・オットガーリ：直感的に理にかなっていますが、ここで強調したいのは、著者にとって利益となることは、編集者にとっても、査読者にとっても、そしてジャーナルにとっても利益になるということです。

スティーブン・オットガーリ：内容に関するエキスパートが、システムによってはいまだ対応が求められる事務作業や重複する業務にではなく、内容に集中することができるようになります。

スティーブン・オットガーリ：論文がアクセプトされる前に起こることは、もちろんプロセス全体の1つの側面でしかありません。

スティーブン・オットガーリ：では、今から、エキスパートにはエキスパートの仕事にさらに集中してもらうため、私たちの内容レビューおよび内容改訂チームが行っていることをご紹介します。

00:19:23.250 --> 00:19:31.500

スティーブン・オットガーリ：ひとたびアクセプトされた論文が進む査読や改訂プロセスに関わる私たちのイノベーションへの取り組みは、根本的に、情報の質と公正さを確保すること、そしてそれを信頼性があり共有しうる、また解明可能かつ利用可能な記録――論文としてあるべき形式の記録――へ改訂することなのです。その記録は信頼性が高く、共有可能で、発見可能で、使用可能であり、それら全てをできるだけ効率よく、そして効果的に行うことで、情報が可能な限り迅速に、より広い世界へと提供されるようにすることです。

スティーブン・オットガーリ：そして、著者がシンプルで手間のかからない投稿プロセスを望んでいることが多くのデータで示されたのと同様に、ひとたび論文がアクセプトされたら、彼らはそれが掲載されるまで何カ月も待ちたくないということも、私たちには分かっています。

スティーブン・オットガーリ：掲載までにかかる長い期間は、著者にとってはストレスを感じるものであり、ジャーナルの評判にも反映しかねず、研究にとっても好ましくないことは間違いありません。

スティーブン・オットガーリ：パートナーと同様、私たちには出版社として研究普及の世話役たる責任があり、その責任の一環として、可能な限り最良の出版ツールを確保することで、研究成果が信頼できる形で迅速に共有されることに力を尽くさなければなりません。

スティーブン・オットガーリ：信頼性が、ここでは重要な要素になります。スピードのためのスピードは最終的な目標ではありませんが、出版までの時間を短縮しながら研究の質と公正さを確保し続けるための方法は多くあります。

00:21:09.360 --> 00:21:14.040

スティーブン・オットガーリ：私たちが実践している方法の1つが、社内の内容レビューチームです。

スティーブン・オットガーリ：着実な査読は学術分野の質の確保において基礎をなすものですが、先に述べたとおり、編集者と査読者はかつてないほどの時間的制約に追われています。

スティーブン・オットガーリ：多くの場合、事務作業に追われているせいで、彼らには自分の時間と専門性を最大限に活かす戦略的業務がなかなかできません。

スティーブン・オットガーリ：この状況において、Wiley社内の内容レビュー専門チームは、編集と査読プロセスで編集者をサポートし、査読の実施に関して一貫性があり整合したアプローチを可能にします。

スティーブン・オットガーリ：学術出版のベストプラクティスを実践する形で、内容レビューチームは現在、学会パートナーの多くの学会誌を含む幅広い領域にわたる600以上のジャーナルの編集部門を管理しています。

スティーブン・オットガーリ：では、このチームはどのように機能しているのでしょうか？

スティーブン・オットガーリ：内容レビューにおいて、各ジャーナルには、新規投稿をチェックしたりジャーナルの編集スタッフと一緒に戦略開発にあたる、事務業務担当の2人組の専門チームがいます。

スティーブン・オットガーリ：そのおかげで、編集者に時間の余裕が生まれ、また一貫性を確保することもできます。例えば、内容レビューチームは、編集スタッフのオフィス不在時の代理対応もします。

スティーブン・オットガーリ：ただし、内容レビューサービスは、ジャーナルの円滑で確実なマネジメントのためだけに策定されたものではありません。

スティーブン・オットガーリ：私たちはさらに、編集プロセスを向上させるサービスやベストプラクティス、ツール、そしてテクノロジーの開発を続けています。先に述べたジャーナル間での原稿の推薦などはその一例です。

スティーブン・オットガーリ：また、私たちは、出版される研究の公正さを確保する一方で、査読プロセスにおけるより良い透明性を提供したいとも考えています。

スティーブン・オットガーリ：これらのサービスやツールは、内容の価値を高める機会を提供し、出版ワークフローにおける後半のプロセスの効率性を高め、編集者、著者、そして査読者の仕事をしやすくします。

00:23:37.080 --> 00:23:44.430

スティーブン・オットガーリ：これらすべてが出版プロセスを簡素化し、研究普及のための基礎を強化します。

スティーブン・オットガーリ：もし知識と情報を共有するための土台として制作プロセスを考えたとき、この土台は強固かつ柔軟な素材で構築される必要があります。

スティーブン・オットガーリ：もし昨年の1年の教訓があるとすれば、それは思いも寄らない突然の変化の可能性に対し、私たちは対応力をつけておく必要があるということです。

スティーブン・オットガーリ：これは、ジャーナル出版のプロセスにおいても変わりません。

スティーブン・オットガーリ：現在私たちが直面している、そして昨年直面してきた変化の数々を考えれば、必要に応じて容易に適応できる、シンプルでレジリエントなプロセスやツールを使って最高品質のコンテンツを出版できるということが、さらに重要になります。

スティーブン・オットガーリ：また、最高品質の研究を着実に出版してジャーナルや学会そのものの名声を築き、それを維持していくという皆さんの能力のためにも不可欠です。

スティーブン・オットガーリ：この柔軟性と堅牢さという課題に対する解決策は、出版プロセスのさらなる自動化です。

スティーブン・オットガーリ：先に述べたように、著者の投稿プロセスにおける自動化の側面は、これまで原稿の書式設定に多大な時間を費やしてきたであろう研究者にとって、学究生活を一変させるものです。

スティーブン・オットガーリ：誰もが、生活の他の側面において自動化を享受している例を簡単に思いつけるのではないかと思います。手作業で対応するまでもなく、スマートテクノロジーがより効率よく、正確に作業を完了してくれます。

スティーブン・オットガーリ：制作プロセスの自動化を議論する際には、カイゼンの文脈、つまり業務プロセスやワークフローを継続的に改善していくというコンセプトに則って考えたいと思います。

スティーブン・オットガーリ：プロセスを標準化し、改善していくことで、私たちはカイゼン式の原則が提示する方法で不要な要素や重複を排除し、品質を犠牲にすることなく、迅速でより良い出版を目指します。

スティーブン・オットガーリ：このことを念頭に、私たちは、制作プロセスにおいて自動化が適切な箇所においてさらなる自動化を実現し、時間のかかるマニュアル業務の介入を削減できる、より洗練されたワークフローを策定しています。ここでもやはり、編集者や査読者、著者が内容の制作に集中できるようになります。

00:26:23.040 --> 00:26:34.980

スティーブン・オットガーリ：もちろん、システムへのインプット、アウトプットが効率的なものでなければ、自動化そのものが成立しません。多くのマニュアルなステップに依存はできません。

スティーブン・オットガーリ：そのため、私たちはここ数年、対象学会のニーズを満たす形式で内容を提供でき、一方で自動化が実現しうるイノベーションに適合するジャーナルのデザインオプションを検討してきました。

スティーブン・オットガーリ：これはもう長いこと計画されていたことでした。しかし、パンデミックが起こり、さらなる自動化の必要性がより喫緊のものとなりました。ジャーナル制作における昔ながらのマニュアル作業を削減してキャパシティの拡大を図るため、新たなワークフローやプロセスが必要となったからです。

スティーブン・オットガーリ：皆さんの中には、私たちの新たなジャーナルデザインとして、最近私たちがコンテンポラリーなジャーナルデザインの最新バージョンをリリースしたことにお気づきの方もいらっしゃるかもしれません。

スティーブン・オットガーリ：現在Wileyの半分以上のジャーナルが、このコンテンポラリーなジャーナルデザインを使用しています。ここでは幅広いスタイルの選択肢が提供されています。

スティーブン・オットガーリ：新デザインの実施により、ジャーナルは、自動化がもたらす将来のイノベーションを実行する能力と内容充実の機会を高めることになり、その一方では出版のスピードと品質の一貫性を向上させることが可能になりました。

スティーブン・オットガーリ：私たちが著者のエクスペリエンスを高める非常に大きな機会であると考えているその他の分野の1つが、各ジャーナルの校正レベルの評価です。

スティーブン・オットガーリ：私たちは、著者が研究発表の場を選択する際に求めていることは何なのかを理解するために、定期的な調査を行っています。

スティーブン・オットガーリ：彼らの回答に必ず出てくるのが、掲載までにかかる時間が重要な検討事項であるということです。

スティーブン・オットガーリ：もちろん、早い方が望ましいということです。

スティーブン・オットガーリ：もっともなことですが、著者は、自分の論文に過剰な編集が加えられたり、もしくは編集不足である場合にも不満を感じます。それらの変更が本当に最終版に価値を加える編集であり、かつ著者の主張を維持するものかどうかを確認するレビューのために、彼ら自身の時間を割かなくてはならないからです。

スティーブン・オットガーリ：校正作業は、私たちのすべてのジャーナルにおいて制作品質の重要な局面です。しかし、ジャーナルや編集者、著者によってニーズが異なることも、私たちは理解しています。

スティーブン・オットガーリ：そのため、私たちはその多様なニーズに対応する、幅広い校正サービスを提供しています。

スティーブン・オットガーリ：皆さんが担当するジャーナルに適した対応をとることは、著者のエクスペリエンスやジャーナルへの評価にも多大な影響を与える可能性があります。

スティーブン・オットガーリ：皆さんに共有したい最後の例は、制作ワークフローそのものに関わるイノベーションです。

スティーブン・オットガーリ：昨年、在宅勤務への移行がもたらした変化に連動する投稿数の急激な増加に対応するための能力拡大を図る一方法として、私たちはさまざまな領域にまたがる200以上の雑誌において、新たにより効率化した制作ワークフローの試行版を立ち上げました。

スティーブン・オットガーリ：この効率化されたワークフローにより著者の校正の過程を簡素化し、プロセスにおける出版までの時間を短縮することができます。

スティーブン・オットガーリ：このワークフローの重要な利点は、必要とされる校正の回数が減るということです。

スティーブン・オットガーリ：これは他の大手ジャーナル出版社においても標準化が進んでいるアプローチであり、多くの著者はすでにこの方式に慣れています。

スティーブン・オットガーリ：これまでに、私たちはこの効率化されたワークフローで12,000本以上の論文を出版しています。著者に校正を渡すまでの時間は、平均で4日短縮されています。また、著者の校正にかかる時間は7日短縮され、その修正を反映する時間は、平均で3日短縮されています。

スティーブン・オットガーリ：つまり、このワークフローを使用したジャーナルへの掲載までの期間は、平均で約2週間、ときにはそれ以上短縮されたことになります。

スティーブン・オットガーリ：これはすでに述べたことではありますが、もしこれが著者の利益にもなると知らなければ、私たちはこのアプローチを採用しなかったでしょう。結果としては、回答のあった10,000人以上の著者のうち、80％がこの新しい校正システムでの校正提出プロセスに満足している、または非常に満足していると答えました。

00:31:20.070 --> 00:31:31.260

スティーブン・オットガーリ：他にもまだ多くの例がありますが、これら全ては、つまりジャーナルを適応性とレジリエンスをもって再構築することから、内容レビューのアプローチを再定義することまで、全てのことが私が冒頭で提示した主要な目標を実現させるために設計されたものです。

スティーブン・オットガーリ：より高性能なツールと簡素化されたプロセスを用いることで、私たちは内容に関わるエキスパートたちが内容に関わる業務を行う時間を確保し、実際に研究発表の促進とその質を高めることの両方を推進しています。そしてそれが実現するとき、それは社会全体の利益となるのです。

スティーブン・オットガーリ：皆さん、ご清聴ありがとうございました。質疑応答の時間が十分あると思いますので、トモさんにお戻しします。

00:32:07.980 --> 00:32:11.910

スズキ・トモユキ：はい、オットーさん、素晴らしいプレゼンテーションをどうもありがとうございました。

スズキ・トモユキ：著者の出版活動を容易にし、また編集者や査読者の時間を節約するすべての取り組みについて聞くことができて良かったです。

スズキ・トモユキ：参加者の皆さんの中には著者や編集者、その他の業務に関わる方が大勢いらっしゃいますので、どんなご質問をいただいているか楽しみです。

スズキ・トモユキ：さて、Q＆Aボックスの中には、1件ご質問が届いています。自由形式の投稿についてのもののようです。

00:32:49.470 --> 00:33:02.670

スズキ・トモユキ：読み上げます。書式を変更しなくて良いのは大変魅力的ですが、どのくらいの数のジャーナルがこの自由形式の投稿を採用しているのでしょうか？ これがご質問です。

スティーブン・オットガーリ：今現在、自由形式のジャーナルの数がどれくらいかを正確に把握はしていませんが、おそらく、30から40だと思います。

スティーブン・オットガーリ：これを開始したのはつい最近、1、2年前のことで、採用するジャーナルの数は、私たちが提供する他のツールと併せて、どんどん増えてきていると思います。例えば先ほどお話ししたような、直接投稿のワークフローなどです。

スティーブン・オットガーリ：ただ、自由形式投稿を利用した著者については、彼らにとって非常に大きな改善となっています。

スティーブン・オットガーリ：利用した著者たちにその体験について尋ねたところ、彼らからはとても肯定的なフィードバックが返ってきています。

スティーブン・オットガーリ：そして編集者や編集部、査読者から特に懸念は出ていません。まさに、これは著者にとって有益であり、自由に投稿ができるようになるものです。

00:34:02.970 --> 00:34:19.920

スズキ・トモユキ：はい、ありがとうございました。それから、Q＆Aボックスではなく、チャットボックスに届いているご質問があります。コメントを読み上げます。

スズキ・トモユキ：素晴らしいプレゼンテーションをありがとうございました。1点、質問があります。編集部の時間の浪費を排除する新しいシステムについてはよくわかりましたが、査読者の負担を減らすシステムはどういったものでしょうか？ 何かお考えはありますでしょうか？ もしもうお話されていたようでしたら申し訳ありません。

スズキ・トモユキ：では、査読者の負担を軽減することについてのご質問です。これに関してはいかがでしょうか？

スティーブン・オットガーリ：そうですね、私たちは、毎年多くのジャーナルが創刊されている結果として、多くの査読者がますます多くの論文の査読を依頼されていることを認識しています。

スティーブン・オットガーリ：私が思うに、これは私たちがいかに査読者の負担を減らせるかというよりは、例えば、ジャーナルが査読をお願いする候補者をより多く見つけておく必要があるということかもしれません。

スティーブン・オットガーリ：ですから、この答えは、編集者たちが彼らのジャーナル向けの査読者をもっと見つけるようにすることだと思いますし、これは非常にタイムリーな質問で、私たちがWileyで検討している点です。

スティーブン・オットガーリ：私たちは、すべての分野の編集者たちが、現在担当している論文のための十分な査読者を見つけるのに大変苦労していることを認識しています。

スティーブン・オットガーリ：そして、そのために、彼らは同じ査読者にますます多くの論文査読を依頼し、これが査読者の負担となっています。

スティーブン・オットガーリ：ですから、われわれ内容レビューチームは、より多くの査読者からの了承を得られるようにするため、査読者の返答の割合に関するより正確で大規模なデータを収集する戦略を検討しています。そうすることで傾向を追跡し、それを編集者や学会と共有することができると思います。

スティーブン・オットガーリ：また、これは主題の領域自体や、学会の規模にもよるかもしれませんので、なぜ査読者に負荷がかかっているのかには複数の理由がある可能性があります。ただ、ジャーナルのための査読者のリストを多様化するために考えられる戦略としては、自身のネットワークの外にいる査読者を呼んだり、他の地域を探してみるなど…… これはもしかしたら依頼の了承率を上げるのに役立つかもしれません。

スティーブン・オットガーリ：これは特に、著者の連携について当てはまることです。著者の連携がより学際的かつ国際的になってきているので、編集者も査読者のリストを国際的に増やすのが良いのではないかと思います。

スティーブン・オットガーリ：もう1つの戦略としては、よりキャリアの早い段階にある研究者を査読に招待する、例えば査読者指導プログラムの一環としてです。

スティーブン・オットガーリ：これは実施にもう少し時間がかかります。なぜなら、これはトレーニングの機会だからです。しかし、より多様な研究コミュニティから査読者を招待することで候補者リストを増やすことは、有益かもしれません。

スティーブン・オットガーリ：そして最後ですが、私が思うに、ますます多くのジャーナルが、私が先に述べたトランスファーネットワークに参加しており、その査読報告はもとのジャーナルから次のジャーナルに転送されますので、私はこれも負担の軽減になると考えています。なぜなら、私たちはより多くの論文を1度だけ査読できるようになり、査読者に査読を何度も依頼することがなくなるからです。

スズキ・トモユキ：ありがとうございます。ご質問をありがとうございました。

00:37:49.800 --> 00:37:55.110

スズキ・トモユキ：次の質問に移る前に、私からも質問があります。私個人からも、査読者について質問があります。

スズキ・トモユキ：査読者への報酬についてです。ジャーナルは、査読者にもっとジャーナルのための査読をしてもらうために、どのような動機づけを行えるでしょうか？ たとえば、査読者への支払いなどのような流れはありますか？

スティーブン・オットガーリ：これも非常に良い質問で、1つ前の質問に関連するものです。支払いについては、査読者へ支払うという傾向はあまり見られません。

スティーブン・オットガーリ：これはもう長いこと議論のテーマになっているのですが、査読者が費やした時間の価値を正確に測れる、信頼に足る持続可能な支払い方法があるようには思えません。

スティーブン・オットガーリ：そしてもちろん、倫理的な考慮と、査読者へ支払うことが査読行為そのものに及ぼしうる影響への懸念もあります。

スティーブン・オットガーリ：しかし、査読者の労力を認知し、それに報いることは実りある議論です。なぜなら、突きつめて考えれば査読は論文の一部であり、それに非常に大きな価値を加えてくれるものだからです。

スティーブン・オットガーリ：ですから、認知に関しては、WileyはPublonsなどの認知システムを採用しています。これは現時点で、ほぼすべてのジャーナルが採用していると思います。また、私たちは査読者への証明書も提供しています。ジャーナルによっては、毎年、誌面に謝辞のリストを掲載するものもあります。

スティーブン・オットガーリ：また、多くのジャーナルは透明性ある査読を提供していますが、このプロセスというのは、編集者の決定通知がなされた後に、査読者のコメントが論文に添えて掲載されるものです。もしこれらのイニシアチブについての詳細にご興味があれば、ご自身の担当ジャーナルの出版マネージャーに問い合わせてみてください。

スティーブン・オットガーリ：ただし一般的に、査読候補者が、依頼された査読の辞退理由として報酬や認知の欠如を挙げることはあまりないことが分かっています。

スティーブン・オットガーリ：一般的に、その論文の研究がどのくらい深く査読者の専門性と関連しているか、またその原稿に興味を持てるかどうかが動機になるようです。これも1つ前の質問に関連しているかもしれません。論文査読に適した査読者に確実に依頼するということです。これらの動機に関わる要因次第で、より多くの査読者が依頼を了承してくれるようになるかもしれません。

00:40:22.020 --> 00:40:41.880

スズキ・トモユキ：わかりました、ありがとうございます。査読者への報酬について、もう1件質問が来ています。最近、多くのオープンアクセスジャーナルでは、論文掲載料の割引などの査読へのインセンティブを採用しています。これは長期的に見てジャーナルの質を上げるのか下げるのか、どのようにお考えですか？

スティーブン・オットガーリ：はい、良いご質問ですね。実は、私たちはオープンアクセスジャーナルの査読者割引について調査したことがありました。数年前、いくつかのジャーナルで試してみたこともあります。

スティーブン・オットガーリ：実施数は多くありませんでした。しかし、これは先ほど述べた査読者への報酬の全体的な評価の一部として、私たちが今でも検討していることです。

スティーブン・オットガーリ：私たちが将来実施しないとは言い切れませんが、しかしやはり、人々が依頼を辞退する本当の理由は何なのか、編集者が直面している真の障壁は何か、さらに全体の傾向について、私たちはよくよく考える必要があります。でも、そうですね、これは良いアイデアですし、私たちが可能性として検討していることでもあります。

00:41:31.230 --> 00:41:44.130

スズキ・トモユキ：ありがとうございます。また別の質問は、論文代筆業者とハゲタカジャーナルについてです。残念なことに、学術出版は論文代筆業者やハゲタカジャーナルによる質の低い原稿に汚染されています。Wileyやその他の出版社には、ハゲタカジャーナルの疑わしい原稿や参考文献を自動的に検知するメカニズムがありますか？

スティーブン・オットガーリ：そうですね、原稿そのものに関しては、先週のクリス・グラフのプレゼンテーションをご覧になっていたらすでに言及されたことかもしれませんが、ScholarOne投稿システムの一環として、すべてのScholarOneサイトはiThenticateという機能を提供することになっています。これは原稿を提出できるツールで、ジャーナルへ投稿された原稿は、このiThenticateツールでチェックすることができます。このツールでは、剽窃の観点から何らかの重複がないか、すでにオンラインで出版されたすべての研究の確認ができます。これは、他人の論文からの盗用や、著者自身の発表内容からの使いまわしのテキストであるかもしれません。ですから、iThenticateツールは、テキスト量の重複を確認するのに大変有効です。

スティーブン・オットガーリ：また、私たちはWileyにおいて、論文中の画像の公正さを確認するツールを開発しています。何らかのデータ操作や画像操作がないか、例えばフォトショップで編集し、研究結果として好ましい形への画像改ざんが行われているかもしれません。

スティーブン・オットガーリ：実際、これらのことは査読プロセスで発見されることがありますが、ここでもやはり、私たちが目指すのは編集者や査読者の負担を軽減することであり、こういったことがこれらのツールを使用することで確認できるようにすることです。

スティーブン・オットガーリ：しかし、ハゲタカジャーナルについての一般的な議論となると、研究者への論文出版のプレッシャーがますます高まっているのは周知のことです。状況として、多くの研究評価や、米国では終身在職権獲得、助成金申請において出版すべき論文数が関係してくることがあり、そのためにより多く出版する必要性が高まっています。「出版か死か」というコンセプトをお聞きになったことがあるかもしれません。

スティーブン・オットガーリ：そのため、このような状況を儲けに利用しようとするジャーナル数が飛躍的に増加しています。これらのジャーナルがハゲタカジャーナルと呼ばれるようになる主な要因は非倫理的な行為にあり、彼らは質のレベルや掲載費用、そして論文内容の査読や掲載の仕方において、ひどく読者を欺いています。これらは、ハゲタカジャーナルについてよく言われる特徴です。

スティーブン・オットガーリ：非倫理的な出版行為の増加を受けて、出版組織は協力してこの状況を取り上げ、対策を取るようになっています。

スティーブン・オットガーリ：研究者やその他の関係者が利用できる、学会主導のイニシアチブが多くあります。その1つが、「Think Click Submit」という オンラインリソースです。このツールは業界パートナーの集団によって立ち上げられたもので、どうやって非倫理的なハゲタカジャーナルを特定するかを、ベストプラクティスはどうあるべきかを考えることで著者に学んでもらい、また査読プロセスにおける危険信号の察知の仕方を伝えています。例えば、編集委員会を確認し、しかるべき機関と繋がりがあるかどうか、またどのような業界団体とそのジャーナルが繋がっているかを確認することがあります。また、例えば、学術界における質の保証であるオープンアクセス学術誌要覧（*Directory of Open Access Journals*、DOAJ）。もしオープンアクセスジャーナルへ投稿しようとしているなら、このオープンアクセス学術誌要覧に収録されているかどうか確認するのがいいかと思います。これはDOAJとも呼ばれています。

スティーブン・オットガーリ：このDOAJは非常に厳格な採用基準を設けており、現在オープンアクセスコミュニティにおける出版基準の中核となっています。ですので、これはジャーナルがハゲタカかどうかを判断する良いリソースだと思います。

スティーブン・オットガーリ：最後に、これもお伝えしようと思いますが、COPEとして知られる出版規範委員会（*Committee of Publication Ethics*、COPE）の古くからのメンバーとして、Wileyは業界のベストプラクティスを堅持し、私たちのウェブサイトには著者や編集者向けの多くのリソースがあります。また、COPEのウェブサイトにも多くのリソースがありますので、参照をおすすめします。

00:46:34.320 --> 00:46:38.220

スズキ・トモユキ：わかりました、この難しい質問にお答えいただき、どうもありがとうございました。

スティーブン・オットガーリ：長くなりましたね。

スズキ・トモユキ：他に、皆さんからご質問やコメントはありますでしょうか？

スズキ・トモユキ：では、私からもう1つ質問させていただきます。パンデミックと、出版までにかかる時間についてです。このプレゼンテーションでは、いかにテクノロジーや自動化技術により出版までの時間が短縮できるかについてのお話がありました。そこで質問ですが、このパンデミックによって、出版までの時間に何らかの影響がありましたか？

スティーブン・オットガーリ：当時、私たちはベンダーやWileyのキャパシティがウイルスにより影響を受けることで、制作時間にも影響が出るかもしれないと考えていました。そしてその軽減のため、例えば在宅勤務などへの移行を検討していました。

スティーブン・オットガーリ：しかし、これは実際には起こりませんでした。Wileyやベンダーの従業員は、誰もこのパンデミックのせいで病気になりませんでした。

スティーブン・オットガーリ：その代わりに私たちが直面した事態は、特定の主題領域における、投稿数とアクセプトされた論文数の急激な増加でした。

スティーブン・オットガーリ：そのため、私たちの制作する論文数がぐんと増えました。その結果として、予想していなかった業務量により、出版までの時間にある程度の遅れが生じました。

スティーブン・オットガーリ：これを文脈に落とし込むと、私たちの出版活動全体において、パンデミック期間中に投稿数は37％増加しました。特にオープンアクセスの投稿は約81％の増加でした。

スティーブン・オットガーリ：私たちが想像するに、オフィスや大学、研究室などが突然閉鎖され、そこで通常行われていた業務が停止したことにより、研究者たちには研究論文を執筆、投稿し、また査読する時間が生まれたのだと思います。

スティーブン・オットガーリ：今後オフィスや研究室が再開された際に、この流れがどう変わるかを予測することはまったく不可能です。私たちは投稿数とアクセプト数はパンデミック以前のレベルに戻ると考えていますが、結果的に業務量が持続した場合にも対応できるよう準備は整えています。

00:49:04.320 --> 00:49:15.990

スズキ・トモユキ：わかりました、ありがとうございます。オープンアクセスの投稿が80％以上も増加したと聞いて驚きました。驚くべき数字ですね。

スティーブン・オットガーリ：はい、そしてその大部分が……、オープンアクセス出版は、皆さんもご想像の通り、特に医療ジャーナルとヘルスサイエンスの分野で多く行われています。

スティーブン・オットガーリ：その多くがオープンアクセスジャーナルであり、そういった研究者たちの目的はもちろん、オープンアクセスジャーナルに投稿することで、読者や一般の人々がパンデミック期間にその情報にアクセスし、ただちに活用できるようにすることでした。

スティーブン・オットガーリ：これを考慮し、これもお伝えしようと思いますが、Wileyは、進行中の新型コロナウイルス研究のみならず、過去のコロナウイルス関連の研究者による一連のリソースやその他論文や書籍の一部を収集しました。私たちはコレクションとリソースサイトをまとめ、パンデミックの結果として生まれたすべてのオープンアクセス論文に加え、それらすべてを無料で一般公開しました。

00:50:20.100 --> 00:50:20.520

スズキ・トモユキ：ありがとうございました。

スズキ・トモユキ：他にご質問はありますか？

スズキ・トモユキ：あと10分、時間があります。

スティーブン・オットガーリ：私の方からも、今回お話した新たなジャーナルデザインや効率化したワークフローのプロセス、また皆さんが担当する学会のニーズや、ジャーナルへの要望に関するどんなコメントでも、視聴者の皆さんのお考えについてぜひお伺いしたいと思います。そういったご意見は非常に私たちの参考になります。

スティーブン・オットガーリ：フィードバックは、今でもいいですし、画面上の電子メール宛てにお送りいただいてもかまいません。

スズキ・トモユキ：はい。

スズキ・トモユキ：では、そろそろまとめに入りたいと思います。このセミナーも終わりの時間が近づいてきました。

スズキ・トモユキ：オットーさん、本日はプレゼンテーションいただき、ありがとうございました。そちらはとても朝早い時間だったと思います。

00:51:32.250 --> 00:51:42.330

スズキ・トモユキ：また、[日本の場所] のWileyスタッフにも、このオンラインイベントを成功に導くお手伝いをしていただいたことに感謝いたします。

スティーブン・オットガーリ：ありがとうございました。

スズキ・トモユキ：視聴者の皆さまが、本日のセッションをお楽しみいただき、また先週のクリス・グラフとの議論を有意義にお感じいただけたようでしたら幸いです。また、皆様の、今後の研究や出版活動の糧となるアイデアの一助となったことを願っております。

スズキ・トモユキ：このオンラインイベントが、皆様にとってどの程度有意義かつ楽しめるものであったか、フィードバックをいただけましたら幸いです。このセッション中か、Eメールでお送りする短いアンケートにて、ぜひご意見をお寄せください。

スズキ・トモユキ：また、本日のプレゼンテーション、また先週のクリスのプレゼンテーションの録画映像は、準備ができ次第、皆さまに共有いたします。

スズキ・トモユキ：改めまして、本セミナーにご参加いただきありがとうございました。では、良い晩をお過ごしください。

00:52:39.510 --> 00:52:43.620

スズキ・トモユキ：（日本語での発話）

スズキ・トモユキ：ありがとうございます。

00:52:46.500 --> 00:52:47.310

スティーブン・オットガーリ：皆さん、ありがとうございました。